

# スタート期にどのような支援が行われているのか —大学と地域の中学校との取り組みにおける「B君ノート」の分析—

奥野由紀子・孟盈・名塚公輔・曹誉・郭莎・趙鑫・魏鈺・朱夏蓮 ※川原薫乃(共同実践者) (首都大学東京)

## 1. はじめに

近年では、大学と学校が連携して日本語支援が必要な子どもに支援を行っている事例も見られ(村澤2017)、学校と地域の連携の在り方を考えていくことが求められている(菅原2018)。

日本語支援のスタート期にどのように学校側と大学とがラポールを形成しながら連携しているのかを明らかにする。

### 本実践の目標

- ① 支援スタート期に学習者BやD中学校とのラポールを築きながら学習支援、日本語支援を行う
- ② Bの友人の異文化理解促進の補助

## 2. 支援の始まり

2019年5月 Bの来日

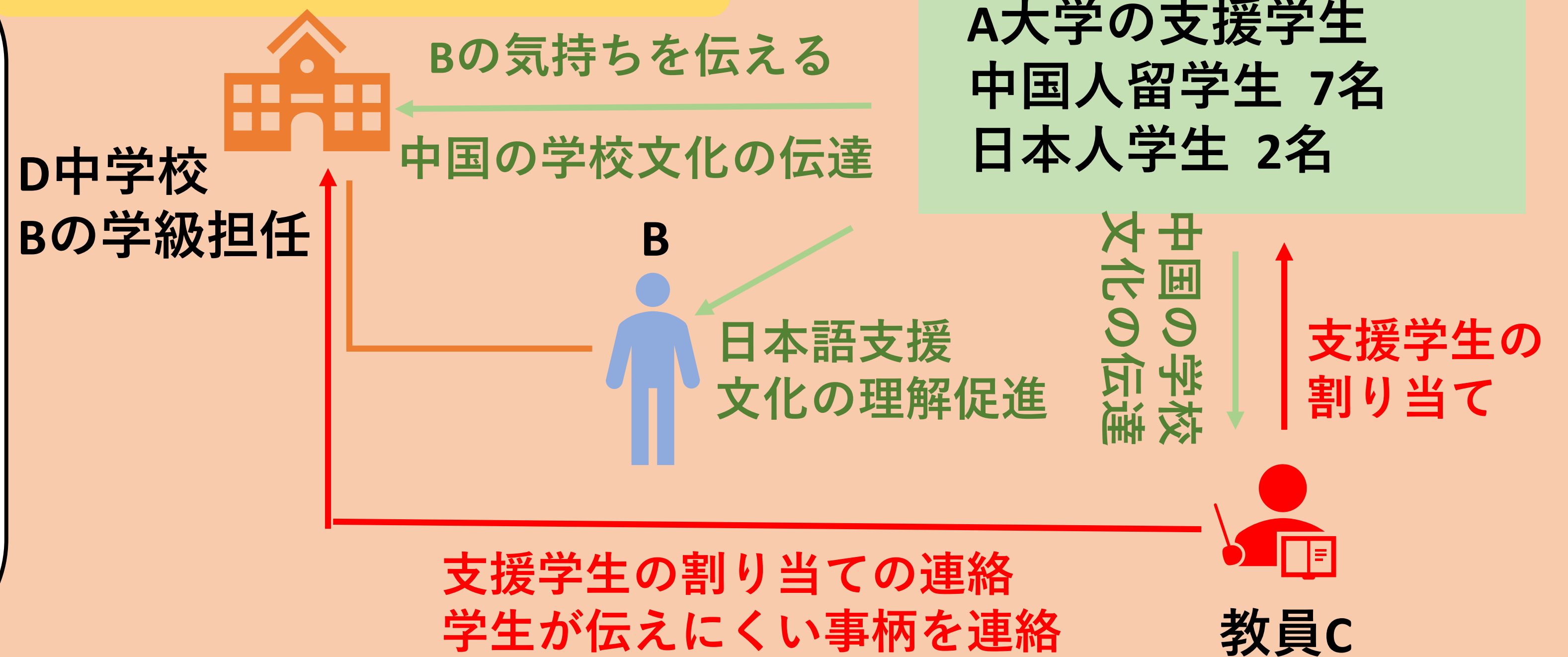
5月末 B:一学年下の学年に所属

教員C:個人的にBの存在を知り、中国人留学生とともにD中学校教員、Bとのヒアリングを行う。

- ・部活の開始時間・授業時間も把握できていない
- ・支援学生がBに「私中国人だよ」と言うとホッとした様子
- ・中学校教員も相当困っている様子

教員Cが日本語教育専攻の学生を集めて支援を始める。

## 3. 支援員の構成



## 4. 支援の記録「B君ノート」

支援に入った学生が、Bを観察し、コメントをつけて記録、SNSでシェア

	I 期	II 期	III 期
学習内容	支援開始 ひらがな、カタカナ	『中学生のほんごー学校生活編一』を使用 文法と日常的な言葉	「あげる」「もらう」などの文法動詞の活用
学生の支援	SNSで連絡先交換(相談役) 日本語についての相談	電子辞書の使い方を教える 担任が中国語で書いた連絡ノートの返事を書かせる 好きな漫画を使った例文作成を提案	水泳をしたくない等の気持ちを学級担任に伝える 職場体験の連絡票の必要性を伝える
教員Cの支援	支援学生を集める 学級担任との連絡	学級担任との連絡を継続 中間テストを受けるかどうかについて学級担任と相談	・合唱コンクールに向けて、歌詞を中国語に翻訳するよう留学生に指示 ・先生に、英語ではなくやさしい日本語で指示してもらうよう伝える

## Bのモチベーション

言葉が通じないなりにコミュニケーション

グループディスカッションに参加できない  
テストで点数が取れない

まだコミュニケーションは取れないが  
少しずつ生活と学習が結びつく

EP

部活中の事故で体育見学→教室で日本語学習担任→B:着替えて見学するよう叱る  
留学生→C:中国では教室で勉強が通常  
C→担任:Bへの伝達&中国学校文化の伝達

## 5. まとめ

- ① SNSを用いたBと留学生との交流  
・日本人学生と中国人留学生の協働によるBへの日本の学校文化とD中学校・担任への中国の学校文化の理解促進  
・教員Cや留学生によるBの学級担任への連絡
- ② 他の生徒への異文化理解の促進は十分ではなかった。中国語教室等の交流の場の創出、支援学生による働きかけが必要

BおよびD中学校とのラポールの形成

## 6. 今後の課題

- ・Bの日本語の習得状況、心境の変化
- ・他の教員への理解をどのように深めていくのか
- ・取り出しから入り込みへどのように移行していくか

学級担任

入り込んで支援してほしい

B

取り出して日本語学習希望

どうすれば?